

大塚商会、「Nutanix Cloud Platform」で IaaS 基盤を全面刷新し「Cloud IaaS 2」を短期間で始動

1,000社を超える顧客の仮想マシンを収容する高可用性を備えたクラウド基盤を実現

課題

- ・ 従来仮想化基盤の一方的なライセンス変更により、同基盤を通じた IaaS サービス「Cloud IaaS」の継続提供が不可能になった
- ・ 1,000 社を超える顧客の仮想マシン (VM) を収容できる、スケーラブルで高信頼・高可用性な新基盤の導入が急務となった
- ・ 最小限の停止時間で既存 VM を新基盤へ移行する手段が必要だった

導入によるビジネスメリット

- ・ 「Nutanix Cloud Platform」の採用で大量の VM を収容できるスケーラブルで高可用のサービス基盤を短期構築
- ・ 高可用性を備えた新サービス「Cloud IaaS 2」を立ち上げ、IaaS 事業の継続性を確保
- ・ 「Nutanix Move」の活用により膨大な数の VM の短期間での移行を可能に



「Nutanix Cloud Platform の採用は、VM の移行ツール『Nutanix Move』の存在と大規模実績が決め手でした。従来基盤でのサービス提供が困難になるなか、Cloud IaaS 事業を継続できたのは、Nutanix のプロダクトがあったからと言い切れます」

大塚商会 MM 本部 MM 戦略推進事業部
MM プロモーション部 サーバー・ストレージ課 係長
鈴木 光博氏



「Nutanix のおかげで、短期間で新たな IaaS 基盤が構築でき、1,000社を超えるお客様の VM 移行もスムーズに実現できていて、本当に助けられています」

大塚商会 たよれーるマネジメントサービスセンター
データセンター運用課 シニアテクニカルスペシャリスト
萩原 通人氏

背景 & 課題

1961 年創業の株式会社大塚商会は「IT でオフィスを元気にする」というスローガンのもと、中小企業を主要顧客とする大手 IT 企業です。システムインテグレーション事業とサービス&サポート事業を中核に成長を続け、2025 年度の連結売上高は 1 兆 3,000 億円を超えています。また、「オフィスまるごと」をコンセプトに、サービス&サポート事業ではクラウドサーバーの提供から運用・サポートまでをワンストップで提供し、中小企業の DX や業務変革を包括的に支援しています。

業界

情報通信サービス

お客様名

株式会社大塚商会

WEB サイト

<https://www.otsuka-shokai.co.jp/>

サービス

- ・ Cloud IaaS 2

ソリューション

- ・ Nutanix Cloud Platform™
- ・ Nutanix AHV Virtualization™
- ・ Nutanix Move
- ・ Professional Services (コンサルティングサービス・テクニカルアカウントマネジメント (TAM) サービス)



NUTANIX

同社はこれまで、自社データセンターを活用した IaaS サービス「Cloud IaaS」を 1,000 社超の顧客に提供してきました。ところが 2025 年に入り、サービス基盤を巡る状況が大きく変化します。大塚商会 MM プロモーション部 サーバー・ストレージ課係長の鈴木 光博氏はこう明かします。「これまで利用してきた仮想化基盤は、メーカーによる使用ルールやライセンス料の変更が相次ぎ、お客様に対して安定したサービスを提供し続けられるかが不透明になりました。そうした状況下で、同基盤のサービスプロバイダーライセンスの契約について突然の変更通知があり、既存契約の更新が認められないという通達を受けました。結果として、新規のお客様への Cloud IaaS の提供を停止せざるを得なくなったうえに、ライセンスの失効により 2027 年 4 月以降、既存のお客様に対しても Cloud IaaS サービスを提供できなくなることが確定したのです」

この危機を打開すべく、同社は以下の 3 点を軸に仮想化基盤の刷新を決断しました。

- IaaS 事業のサステナビリティが担保できること
- 運用の安定性・可用性・セキュリティが高い水準で確保できること
- 自社サービスとして責任をもってサービス運用できること

ソリューション

以上に示した 3 つの要件に適合する新基盤として採用されたのが「Nutanix Cloud Platform (NCP)」です。

同社は NCP をベースに Cloud IaaS の後継「Cloud IaaS 2」を立ち上げ、2025 年 12 月よりサービス受注を開始。2026 年 1 月から新規 VM の提供をスタートさせました。

NCP 採用の最大の決め手は大規模環境における豊富な実績でした。大塚商会 たよれーるマネジメントサービスセンター データセンター運用課 シニアテクニカルスペシャリストの萩原 通人氏は、こう説明します。「新基盤には 1,000 社超の VM を収容しうる拡張性と安定性が求められました。Nutanix は大規模仮想環境を安定して支えてきた実績があり、障害対応を含め、弊社では、十分な性能とサポートが期待できました」

加えて、移行ツール「Nutanix Move」の存在も高く評価されました。

「約 1 年で 1,000 社超の VM を移行させることは至上命題でしたが、難度はきわめて高く、効率化ツールが不可欠でした。NCP に実績ある Nutanix Move が用意されている点が、採用の決定打となりました」(鈴木氏)

こうして構築された Cloud IaaS 2 は、HCI 技術による柔軟な拡張性とハードウェアの冗長性を確保しているほか、ハイパーバイザー「Nutanix AHV Virtualization (AHV)」の HA 機能によりノード障害時も VM を自動復旧する高い可用性を実現しています。

また、Cloud IaaS 2 標準のイメージバックアップ (IBU) 機能により「ランサムウェア対策」「災害時のデータ保全」「迅速な復旧対応」を支援します。

「IBU では遠隔地のデータセンターを 2 次バックアップに活用し、データ保全性を高めています。さらに、IT 担当者が不在の中小企業でも、当社がデータ復旧を担うことで有事への速やかな対応と事業継続を支援します」(萩原氏)

導入効果

同社では、Nutanix Move を活用した VM 移行を鋭意進めています。萩原氏はその効率性についてこう明かします。「お客様 1 社あたりの移行作業は 1 時間以内で完結し、実質的な切り替え時間は 20～30 分程度。1 カ月に 100 社以上のハイスピード移行を完了しました」

また、Nutanix のプロフェッショナルサービスの技術支援の品質を萩原氏はこう評価します。「導入時のコンサルティングや TAM (Technical Account Manager) サービスなど手厚いテクニカルサポートにより、システム開発の始動から約 3～4 カ月で Cloud IaaS 2 の基盤が構築できました。想定を超えるスピードでした」

今後の展望

同社では今後、Cloud IaaS 2 をクラウドサービス事業の中核に位置づけ、多様な顧客ニーズへの対応を進めていく方針です。鈴木氏は次のように語ります。「これからは、バックアップやセキュリティ関連プロダクトなど、当社で取り扱う多彩なソリューションを Cloud IaaS 2 サービスのオプションとして組み込むことも見据えています。Nutanix との協業を通じて、基盤の高度化とサービス品質の向上を図り、市場や技術がどう変化しても、お客様が長く安心して利用できるサービスを提供し続けることを目指しています」

NUTANIX

info-jp@nutanix.com | www.nutanix.com/jp

©2026 Nutanix, Inc. All rights reserved. Nutanix は Nutanix, Inc. の米国その他の国における商標です。
その他の社名、製品名、ロゴ等は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。
本書に記載した情報は、予告なしに変更される場合があります。